

# 夢窓幼稚園通信第42号

2017年10月3日

あきまつりが終わり 静かな大地に立って 高く澄んだ青空を見上げ 耳傾けていると、空に昇っていくことができそうな気がしてきます。

いのちはみんなつながっていて、それから おひさまやたくさんの力や自然を形作っている働きと自分とが身近に感じられる「秋」だからなのかもしれません。

あきまつりで 私たちはたくさんの収穫物…ゆたかなめぐみをいただきましたが、それらはほんとうに多くの働きと祝福が注がれた「たまわりもの」なのだと思いためて受けとめることができた気がします。

頭ではなく、身体を使って心をこころ動かしてドラマをたくさんの人たちで作りに出していく…ということは実際すごいことなのでしょうね。

神さまが宇宙を創造するように、人々の思いとして、新しい世界を、新しい価値を産み出していくのですから……!

子どもたちが、うさぎやりすや おさるにすっかりなってしまう。真剣にどんぐりやりんごの玉を集め、おひさまケーキのふくらんだバルーンに向かって手を出してむしゃむしゃとおいしそうに食べている……。「ごっこあそび」と呼ばれている幼い子どもたちの営みが、人に与えられている意味は計りしれないのではないのでしょうか。

幼な子と共に過す生活の中で 私たち大人もイマジネーションの働きで、雲にのってのんびり昼寝することも、闇の力と向き合って閉ざされた光を取り戻すこともできるということを思い出させてもらえるのですね。

大地と大空の間をどう生きるのか…一人ひとりの私たちの立ち方が 未来の世界を方向づけ 形あるものにしていくことでしよう。

10月、11月…と、収穫感謝の祝祭のセレモニーや体験の機会が待っています。自然からのたまわりものに感謝すると共に、それぞれの自分と隣の誰かの輝きをわくわく受けとめ合える…そんな深まりの秋を過したいと思います。

園長 弁光 泰雄